

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-302287

(43)公開日 平成7年(1995)11月14日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

府内整理番号

F I

技術表示箇所

G 06 F 19/00

G 06 F 15/ 28

B

審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全5頁)

(21)出願番号 特願平6-96557

(71)出願人 000006611

株式会社富士通ゼネラル

神奈川県川崎市高津区末長1116番地

(22)出願日 平成6年(1994)5月10日

(72)発明者 内山 伸一

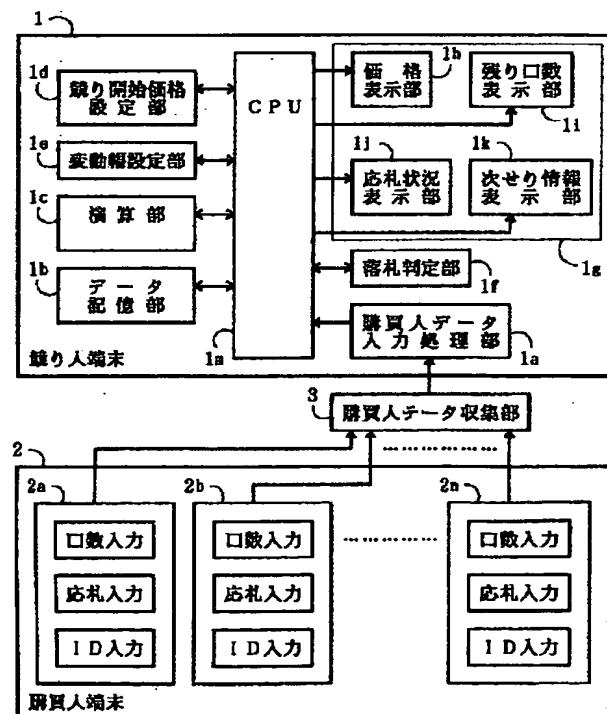
川崎市高津区末長1116番地 株式会社富士
通ゼネラル内

(54)【発明の名称】 競りシステム

(57)【要約】

【目的】 コンピュータを利用した競りシステムにおいて、競り開始から落札までの時間を短縮し、競りをスムーズ且つ効率よく進行できるようにする。

【構成】 購買人識別番号及び競りの対象商品の購入口数等を入力する、購買人ごとの複数設置してなる入力手段(購買人端末2)と、前記対象商品に関する過去の累積取引数及び落札価格のデータを記憶しているデータ記憶手段(データ記憶部1b)と、前記入力手段それからのデータを集計して得た前記対象商品に対する購入希望者総数及び購入希望総口数と、前記記憶手段における記憶データとから適切な競り開始価格及び競り価格変動幅とを演算する演算手段(演算部1c、CPU1m等)と、同演算手段に基づき競り開始価格及び競り価格変動幅を設定する競り開始価格・変動幅設定手段(1d、1e)とを備え、前記設定した競り開始価格及び競り価格変動幅により競りを進行する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 購買人識別番号及び競りの対象商品の購入口数等を入力する、購買人ごとの複数設置してなる入力手段と、前記対象商品に関する過去の累積取引数及び落札価格のデータを記憶しているデータ記憶手段と、前記入力手段それからのデータを集計して得た前記対象商品に対する購入希望者総数及び購入希望総口数と、前記記憶手段における記憶データとから適切な競り開始価格及び競り価格変動幅とを演算する演算手段と、同演算手段に基づき競り開始価格及び競り価格変動幅を設定する競り開始価格・変動幅設定手段とを備え、前記設定した競り開始価格及び競り価格変動幅により競りを進行するようにしたことを特徴とする競りシステム。

【請求項2】 購買人識別番号、参加する競りのレーンの指定、及び競りの対象商品の購入口数等を入力する、購買人ごとの複数設置してなる入力手段と、前記対象商品に関する過去の累積取引数及び落札価格のデータを記憶している、各レーンごとに設けてなるデータ記憶手段と、前記入力手段それからのデータを各レーンごとに集計して得た前記対象商品に対する購入希望者総数及び購入希望総口数と、前記記憶手段に記憶しているデータとから適切な競り開始価格及び競り価格変動幅とを演算する、各レーンごとに設けてなる演算手段と、同演算手段に基づき競り開始価格及び競り価格変動幅を設定する、各レーンごとに設けてなる競り開始価格・変動幅設定手段とを備え、前記設定した競り開始価格及び競り価格変動幅により複数の競りを並行して進行するようにしたことを特徴とする競りシステム。

【請求項3】 購買人識別番号、競りの対象商品の購入口数及び所要データを入力する、購買人ごとの複数設置してなる購買人端末と、競りの対象商品の購入希望者総数及び購入希望総口数を集計処理する購買人データ入力処理部と、競りの対象商品について過去の累積取引数及び落札価格のデータを記憶しているデータ記憶部と、前記購買人データ入力処理部よりの購入希望者総数及び購入希望総口数と、前記データ記憶部よりの所定データとから適切な競り開始価格及び競り価格変動幅を演算する演算部と、前記演算部による演算に基づき競り開始価格を設定する競り開始価格設定部と、前記演算部による演算に基づき競り価格変動幅を設定する競り価格変動幅設定部と、前記競り開始価格設定部よりの競り開始価格、及び前記競り価格変動幅設定部よりの競り価格変動幅等所定の競り情報を表示する表示部と、購買人の応札順に該当の購買人への落札口数の割り当てを定める落札判定部と、前記購買人データ入力処理部、データ記憶部、演算部、競り開始価格設定部、競り価格変動幅設定部、表示部、及び落札判定部とを制御するコンピュータ装置とを備えてなり、競りを行うレーンごとに設けてなる競り人端末と、前記複数の購買人端末それからの購入口数及び所要データを購買人識別番号及びレーンと対応づけて収集し、該当レーンに係る競り人端末の購買人データ入力処理部に同収集したデータを送出する購買人データ収集部とで構成し、競りを行うレーンごとに、購買人側が自己の購入希望口数を競り開始前に入力することで競り人側が購入希望者総数及び購入希望総口数を把握し、同把握したデータと、過去の実績データとから適性な競り開始価格及び競り価格変動幅を設定し、複数の競りが並行して行え得るようにしたことを特徴とする競りシステム。

【請求項5】 前記購買人端末それと、競り人端末とをバス接続したことを特徴とする請求項3記載の競りシステム。

【請求項6】 前記購買人端末それと、競り人端末とをバス接続したことを特徴とする請求項4記載の競りシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、競りシステムに係り、より詳細には、コンピュータを利用した競りシステムにおいて、競り開始から落札までの時間を短縮し、競りをスムーズ且つ効率よく進行できるようにした競りシステ

ムに関する。

【0002】

【従来の技術】現在、花や自動車等の一部の商品における競り市場においてはコンピュータを利用した自動競り（オークション）システムが導入されている。このシステムは、競りの対象である商品及びその価格等を大画面に表示等する競り人端末と、前記画面を見ながら購入希望金額等を入れする購買人端末とで構成される。しかし、自動化されたこのような競りシステムにおいても1つの商品に対する競りに対し、競りの開始価格や、その後の価格変動幅等を過去の実績データと十分関連付けて定めていないために適切なものでなく、そのために入札開始から落札終了までの時間がかかるという欠点があった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は前記欠点の改善を図ったものであり、競り市場における競りをスムーズ且つ効率良く進行せしめ、入札開始から落札終了までの時間を短縮するようにした競りシステムを提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、購買人識別番号及び競りの対象商品の購入口数等を入力する、購買人ごとの複数設置してなる入力手段と、前記対象商品に関する過去の累積取引数及び落札価格のデータを記憶しているデータ記憶手段と、前記入力手段それからのデータを集計して得た前記対象商品に対する購入希望者総数及び購入希望総口数と、前記記憶手段における記憶データとから適切な競り開始価格及び競り価格変動幅とを演算する演算手段と、同演算手段に基づき競り開始価格及び競り価格変動幅を設定する競り開始価格・変動幅設定手段とを備え、前記設定した競り開始価格及び競り価格変動幅により競りを進行するようにした競りシステムを提供するものである。

【0005】

【作用】次に行われる競りの商品等については、競り人端末を構成する表示画面に表示される。購買人それぞれはこの画面表示を見て、その商品について自己が希望する購入口数を購買人識別番号とともに各購買人端末からそれぞれ入力する。各購買人端末からそれぞれ入力された購入口数は購買人データ収集部で購買人識別番号と対応付けて収集後、購買人データ入力処理部（競り人端末）に送られ、どれだけの購買人が何口購入を希望しているかにつき集計する。一方、データ記憶部から競りの対象商品に関する、過去の累積取引数及び落札価格のデータを読み出す。読み出した同データと、前記集計したデータとから適切な競り開始価格や価格変動幅を演算する。この演算に基づく競り開始価格や価格変動幅で競りを進行する。

【0006】

【実施例】以下、図面に基づいて本発明による競りシステムを説明する。図1は本発明による競りシステムの一実施例を示す要部ブロック図であって、1つの競りを対象としたシステムであり、図2は図1の表示部1gの具体的表示例を示す図、図3は複数の競りを並行して行えるようにした実施例を示す要部ブロック図であり、図4は図3の各ブロック間をバス接続した実施例を示すものである。図1において、1は競りを進行する側の競り人端末、2は各購買人それぞれが購買人識別番号（ID）、競りの対象商品の購入口数及びその他の所要データを入力する購買人端末、3は前記購買人端末2の各端末からの購入口数等を購買人識別番号と対応づけて収集し、同データを前記競り人端末1の購買人データ入力処理部1aに送出する購買人データ収集部である。

【0007】競り人端末1において、1aは前記購買人データ収集部3よりの競りの対象商品の購入希望者総数及び購入希望総口数を集計処理する購買人データ入力処理部、1bは競りに係る商品について過去の累積取引数及び落札価格のデータを記憶しているデータ記憶部、1cは前記購買人データ入力処理部1aよりの購入希望者総数及び購入希望総口数と、前記データ記憶部1bよりの所定データとから適切な競り開始価格及び競り価格変動幅を演算する演算部、1dは前記演算部1cによる演算に基づき競り開始価格を設定する競り開始価格設定部、1eは前記演算部1cによる演算に基づき競り価格変動幅を設定する競り価格変動幅設定部、1fは購買人の応札順に基づき、該当購買人への商品口数の割り当てを定める落札判定部、1gは競り価格を表示する価格表示部1h、残り口数を表示する残り口数表示部1i、応札状況を表示する応札状況表示部1j、及び次に行う競りの情報を表示する次競り情報表示部1kを備えてなる表示部、1mは前記各ブロックを制御するコンピュータ装置である。

【0008】購買人端末2において、2a、2b及び2nは各購買人の使用に供する購買人端末それぞれである。次に図3において、11、12及び13は競りを行うレーンがAレーンからNレーンまである場合に、各レーンごとに設ける競り人端末、14は購買人端末であって、図1の各端末の機能に更に購買人が参加したい前記レーンを指定することができる機能を設けてなる端末装置14a、14b、及び14nからなるもの、15は購買人端末14からのデータを収集し、指定のレーンに所要データを送出する購買人データ収集部である。次に図4において、21はバスライン、その他は図3と同様のものである。

【0009】次に、本発明の動作につき、図ごとに分けて説明する。

（1）図1の説明

競り人側は次に行う競りの対象商品について次競り情報表示部1kで表示し、購買人に知らせる。なお、表示部1gの各表示の具体例（花競り）を図2に示す。図1と符号50号の部分がその表示を示す。この表示を見た購買人それ

それは自己の購買人端末 (2a～2n) から表示された商品の購入口数を購買人識別番号 (ID) とともに入力する。各購買人端末 (2a～2n) から入力された購入口数に係るデータは購買人データ収集部 3 で購買人識別番号と対応付けて収集される。同収集したデータを競り人端末 1 の購買人データ入力処理部 1a に送る。同購買人データ入力処理部 1a は送られてきたデータから購入希望者総数及び購入希望総口数を集計処理する。ここに購買希望者総数は購買人識別番号の数から、購入希望総口数は各端末から入力された口数を合計することでそれぞれ判明する。

【0010】一方、コンピュータ装置 1m はデータ記憶部 1b から競りの対象商品について、過去の累積取引数及び落札価格に関するデータを読み出す。ここにいう過去データとは前日迄の累積、及び当日の累積をもって随時更新してなるデータである。同データを基に、前記集計した購買希望者総数及び購入希望総口数から競り開始時の適切な設定価格 (競り開始価格) 及び同設定した価格に対する適切な変動幅 (競り価格変動幅) とを演算部 1c で演算する。適切な価格設定により、競りを効率よく進行するためである。演算部 1c による上記演算に基づき、競り開始価格設定部 1d で競り開始価格を設定し、競り価格変動幅設定部 1e で競り開始価格以降の価格変動幅を設定する。

【0011】対象の商品について競りが開始されると、価格表示部 1h には先ず前記競り開始価格が表示される。この価格で落札しない場合には前記設定した価格変動幅に従い価格表示し、競りを進行していく。このように進行していく中で、購買人端末 (2a～2n) からの応札 (入札) があった場合には落札判定部 1f により以下のように判定され落札する。応札者が一人であればその者に希望した口数 (事前に入力されている) 及びそのときの表示価格で落札する。応札者が複数の場合、応札の早い者順に落札する。この場合、購入希望口数の合計が競り人側保有の口数を越えているときには前記早い者順に希望の口数で割り当てる、最後の者には残分を割り当てる。例えば、応札者が甲、乙の 2 人で、甲は 5 口、乙は 8 口希望し、保有口数が 10 口である場合、甲が優先であれば甲には 5 口割り当てるが乙には残分の 5 口となる。反対に乙が優先であれば、乙には希望通りの 8 口割り当てる、甲には残分 2 口を割り当てる。以上のようにしてその商品の落札が終了する。この段階では次の競りの対象商品に対する希望口数が各購買端末から既に入力されており、以下前述のプロセスを繰り返す。

【0012】(2) 図 3 の説明

図 3 は図 1 の構成を基本として拡大したもので、複数の競りを並行して行え得るようにしたシステムである。この場合、購買人がレーンを指定できるようにする必要があるのでそのための「レーン入力」の機能を各購買人端末 (14a～14n) に設けている。また、購買人データ収

集部 15 は、図 1 における同収集部 3 と同機能を具備する他、指定のレーンへ購入口数等の所要データを送出する機能を有する。競りの進行そのものは図 1 と同様である。

【0013】(3) 図 4 の説明

図 4 は図 3 のシステムの各ブロック間をバスラインで接続した方式のシステムである。バスラインのため、図 3 の購買人データ収集部 15 によるデータ収集は不要となるので同ブロックは削除してある。競りの進行そのものは図 3 と同様である。なお、本バス方式は図 1 にも適用できる。

【0014】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、競りを開始する前に予め購買人の人数や購入希望口数を把握し、これと過去の実績データ等とから競り開始価格及び競り価格変動幅を演算して設定するので、競りをスムーズ且つ効率よく進行することができる。従って、競り開始から落札までの時間が従来のシステムに比し短縮され、より早く、又最適な価格という競りの理想に一步近づくものである。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明による競りシステムの一実施例を示す要部ブロック図である。

【図 2】花競りを例とした表示例を示す図である。

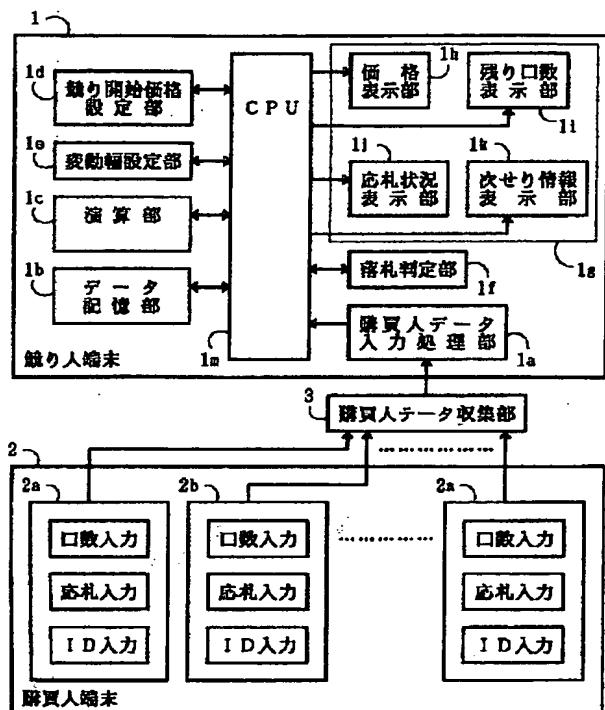
【図 3】本発明による競りシステムの他の実施例を示す要部ブロック図である。

【図 4】図 3 をバス方式とした実施例を示す要部ブロック図である。

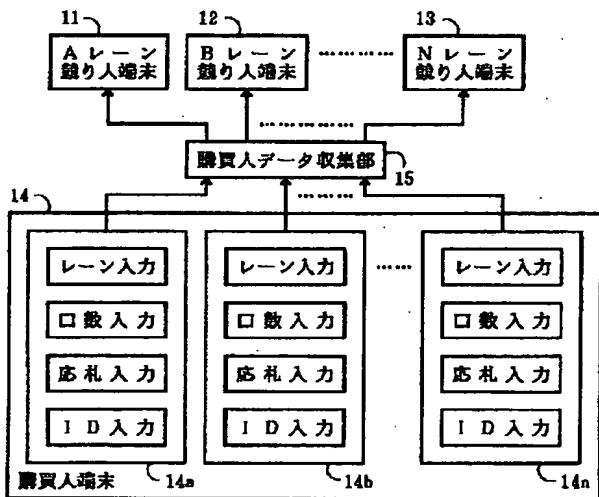
【符号の説明】

30	1 競り人端末
	2 購買人端末
	3 購買人データ収集部
	1a 購買人データ入力処理部
	1b データ記憶部
	1c 学習機能部
	1d 競り開始価格設定部
	1e 競り価格変動幅設定部
	1f 落札判定部
	1g 表示部
40	1h 価格表示部
	1i 残り口数表示部
	1j 応札状況表示部
	1k 次競り情報表示部
	1m コンピュータ装置
	11 A レーン競り人端末
	14 購買人端末
	15 購買人データ収集部
	21 バスライン

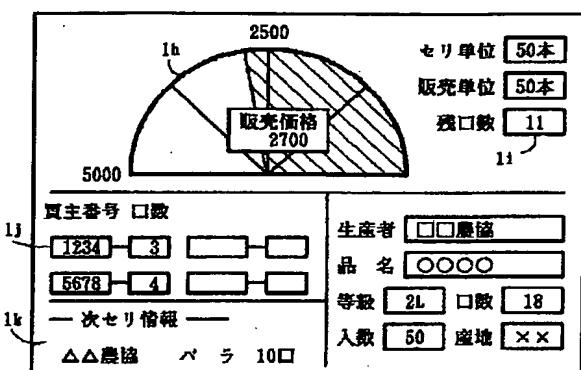
【図1】



【図3】



【図2】



【図4】

